

Public Health



School of Health Innovation

2025

公立大学法人
神奈川県立保健福祉大学大学院
ヘルスイノベーション研究科



Innovation



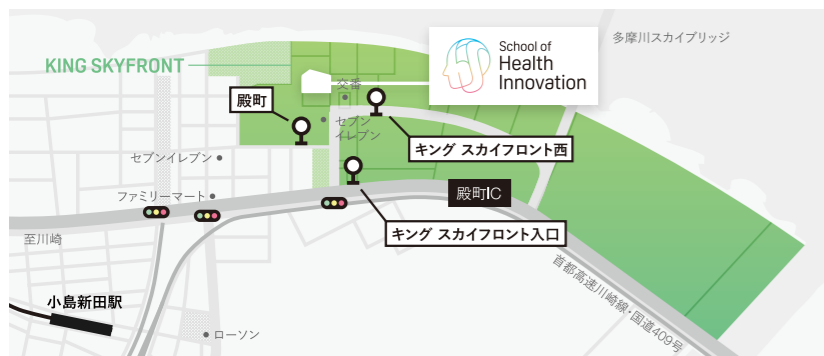
- 取得学位：修士(公衆衛生学) | 博士(公衆衛生学)
- 修業年数：2年(修士課程) | 3年(博士課程)
- 入学定員：1学年15人 | 1学年2人
- 授業時間：平日夜間(18:40-21:50)
土曜日(9:00-17:50)
※カリキュラム編成により異なる場合があります
- 講義言語：英語、日本語

ヘルスイノベーションスクール 検索

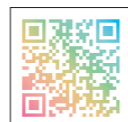
www.kuhs.ac.jp/shi/

公立大学法人神奈川県立保健福祉大学大学院
ヘルスイノベーション研究科
(ヘルスイノベーションスクール(略称:SHI))

TEL. 044-589-8100
〒210-0821 神奈川県川崎市川崎区殿町3-25-10
Research Gate Building TONOMACHI 2-A棟 2・3階



交通アクセス
京浜急行大師線
「小島新田駅」から
徒歩15分



Human Services





次世代の ヘルスイノベーターを 育成する。

「人生100歳時代」を見据える日本。
世界有数の長寿大国として抱える課題は大きい。
少子高齢化に伴って生じる社会構造のダイナミックな変化に、
従来のシステムでは対応しきれないのが現実です。

だからこそ、世界に先駆けて取り組んでいく。
一人ひとりが健やかな人生を送れる社会を築くために、
神奈川県に掲げる新しい「未病」コンセプトをベースに、
テクノロジーのみならず社会システムにも革新をもたらしていく。
それが、新たに誕生したヘルスイノベーションスクールの使命です。

既存概念にとらわれない科学的根拠にもとづいた解決策を模索し、
健やかな明日の社会を様々な専門性を持つ人々と共に創っていききたい。

この想いに共感してくれる、あなたへ。
ヘルスイノベーションのチームに加わりませんか。



世界の高齢化問題を解決する 新たな学問の第一人者となろう

公立大学法人
神奈川県立保健福祉大学
副学長 兼
ヘルスイノベーション研究科長

鄭 雄一

ヘルスイノベーション研究科 (SHI) は、高齢社会を支える新しい健康観「未病」を研究対象とし、世界に先駆けて学問体系化を目指す、これまでにない研究・教育機関です。日本はもちろん、グローバルにおける健康長寿社会の実現に寄与する学問領域を切り拓き、それを担う人材を育成していくことに、研究科長として大きなやりがいを感じています。SHIは、公衆衛生学をベースとしながら、保健・医療・福祉にイノベーションを起こす上で必要な視点やスキルを磨くカリキュラムを充実させています。「未病」「最先端医療技術」などの先進領域を学ぶ科目、「アントレプレナーシップ」をはじめとしたビジネス関連科目、

そしてビッグデータやAIを用いた健康リスクの予測について学ぶ「データサイエンス」などが特徴的です。また学び方もユニークで、なかでも、社会実装を目標とした研究活動を行う点は特筆すべきでしょう。神奈川県はもちろん、WHO(世界保健機関)や海外大学といった県のグローバルネットワークを活かしたフィールドワークの機会が多く提供されます。SHIでの学びは、研究が県政に反映される可能性があるチャレンジングな環境であり、グローバルな課題解決の最前線に携わる近道でもあるのです。好奇心にあふれ、何か新しいことをやってみたいと意欲を燃やす方に、ぜひ参加していただきたいと思います。

修士課程

養成する人材

4タイプのイノベーターを養成

公衆衛生学を基盤とし、イノベーションの創出に取り組む、「リサーチャー」「ビジネスパーソン」「アドミニストレータ」「ポリシーメーカー」の4タイプの人材を育成します。先端技術やデータサイエンス、アドミニストレーションなど、幅広い知識や能力を持ち、多様なステークホルダーと協働できる専門人材になることを目指します。



リサーチャー

技術革新や、その基礎となる技術の研究・開発ができる人材へ

トランスディシプリナリーな研究に携わる人材や、保健・医療・福祉分野に関する科学技術コミュニケーターを目指す人材を育成します。さらに、未病の領域についてエビデンスを探求し、新たな学問領域の構築や未病の学問体系化を志す人材、次世代の新たな価値を生み出せる人材に成長できます。

具体的な進路

- ①大学などの研究機関において、保健・医療・福祉課題の解決に向けた研究を遂行する研究者
- ②企業などにおいて、保健・医療・福祉課題の解決に資する製品・サービス等の開発をする研究者
- ③医療機関などにおいて、患者や国民の健康に資する研究などに携わる医療提供者・研究者

ビジネスパーソン

革新的な技術を具体的に産業化できる人材へ

ヘルスケア産業、その他のIT、サービス、食品関連企業などで、未病産業などの新しいビジネスを興せる人材の輩出を目指します。

また、社会的な課題に対して、新たなテクノロジーを活用し、課題の解決へと導くことのできるソーシャルアントレプレナーなどの人材を育成します。

具体的な進路

- ①ヘルスケア関連企業で、技術・サービス・製品等の開発や社会実装・国際展開に取り組む職員
- ②ヘルスケア関連企業で、社会的ニーズを汲み取り、経営戦略を立案する職員
- ③社会的ニーズに対応した医療技術・サービスを提供する新たな事業を興す企業家



アドミニストレータ

組織管理に革新を起こし、効果的な保健医療サービスを提供できる人材へ

未病の観点や、地域のニーズを踏まえた医療サービスを展開するために必要な知識と技術を習得することができます。行政・研究者・企業などとも連携しながら、次世代の保健医療サービスのあり方をデザインし、組織経営ができる人材を育成します。

具体的な進路

- ①急性期病院や高度な健診機能を備えた医療機関などで、組織経営に参画することを志す職員
- ②高度な医療サービスの国際展開を目指す医療機関などにおいて、組織経営に参画することを志す職員
- ③効率的で質の高いケアの提供を目指す介護施設等において、組織経営に参画することを志す職員



ポリシーメーカー

組織・人材を繋ぎ、革新的な社会システムをつくることのできる人材へ

地域や自治体が抱える保健・医療・福祉課題を発見し、社会制度や多様なステークホルダーのニーズを踏まえて、課題の分析や解決策の提言を行える人材を育成します。

具体的な進路

- ①保健・医療・福祉課題を体系的に理解し、多様なステークホルダーを繋ぐことのできる自治体職員
- ②国連、WHO、JICAなど保健・医療・福祉課題に取り組む国際的機関の職員
- ③ASEAN諸国を中心とした中央政府や地方自治体で保健・医療・福祉政策を担当する職員



修士課程

学ぶこと



共通科目

本研究科の理念を修得

本学の理念である「ヒューマンサービス」や、本研究科が追究する「ヘルスイノベーション」や「未病」のコンセプトの基本概念について共有し、カリキュラムの全貌を俯瞰するための科目を設置。また、現代のイノベーションに不可欠な「データサイエンス」や「ヘルスイノベーションにおける責任ある研究・イノベーション」など、専門科目への架橋となる基本的な知識・能力を習得します。



ヘルスイノベーション専門科目

次世代を牽引するイノベーション人材の育成のための科目

個人の興味関心に合わせた履修が可能

新たな課題解決の方策を立案するため、革新的なテクノロジーやデータサイエンス、組織管理に欠かせないビジネス科目など、多面的な観点から科目を配置。従来のシステムでは対応しきれない課題解決に資するイノベーションの創出に向けて、学際的アプローチを目指します。



公衆衛生学基盤科目

公衆衛生学位 (MPH) 取得に不可欠な科目

国際的なスタンダードとして認知されている米国公衆衛生学教育協議会が定める公衆衛生プログラムの基準に沿って「疫学」「生物統計学」「社会行動科学」「環境保健学」「保健医療管理学」の5領域から科目を配置。現代における保健・医療・福祉課題の探求や、その解決に向けた科学的思考の礎となる知識や能力を滋養します。公衆衛生修士号を取得する上で、とりわけ重要な科目群です。



実践・特別研究科目

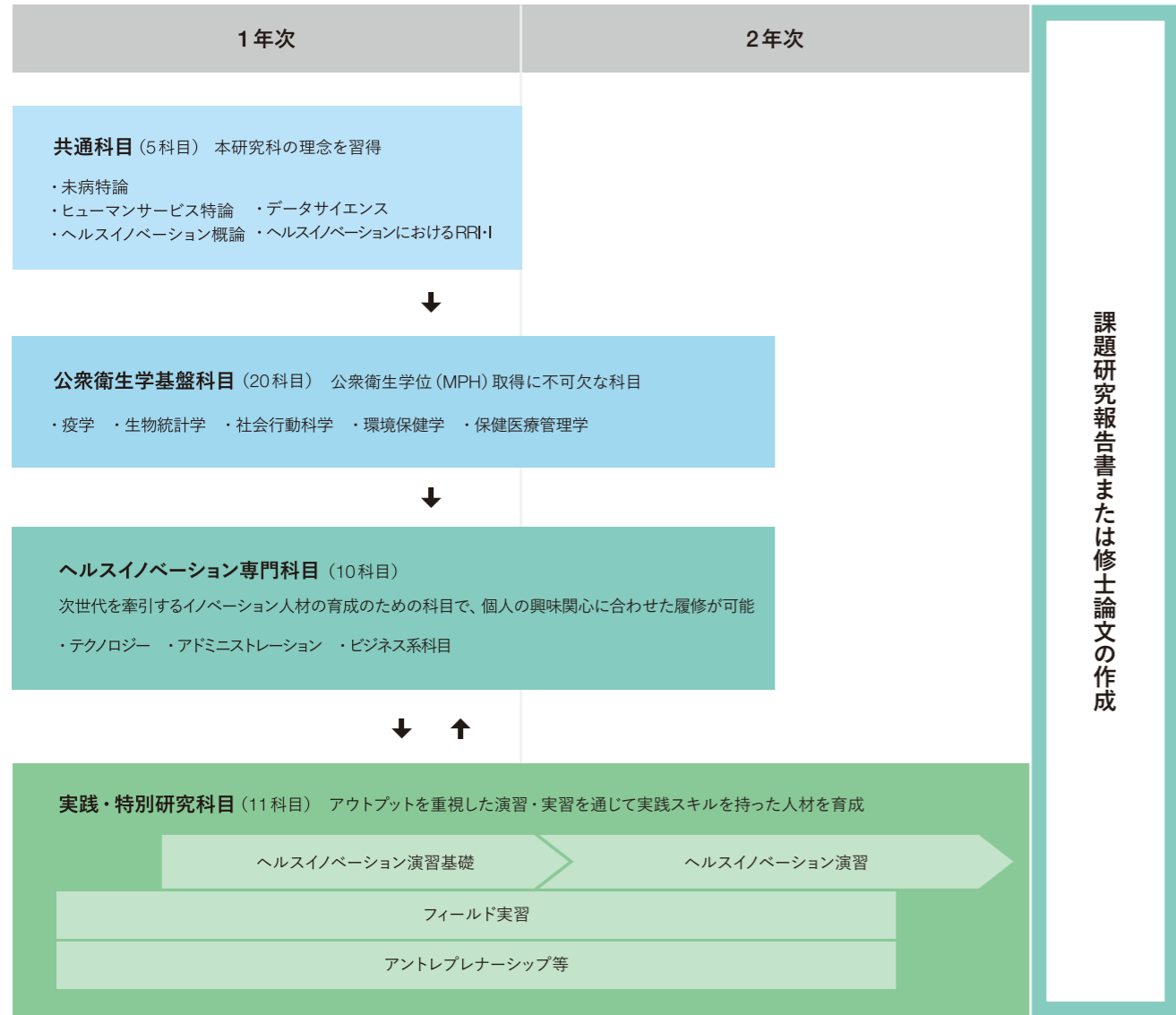
アウトプットを重視した演習・実習を通じて実践スキルを持った人材を育成

学んだ知識や能力を活用する実践的な演習・実習科目を配置し、ヘルスイノベーションの実現に向けた手法を経験します。新たな事業創造について学ぶ「アントレプレナーシップ」や、様々なステークホルダーを動かすための「アカデミックプレゼンテーション」を設置するほか、社会における取り組みを経験するために「フィールド実習」を配置し、実践的かつ能動的な学びの場を提供します。

修士課程

次世代のヘルスイノベーターの育成を目指し、保健・医療・福祉・公衆衛生や経営管理・イノベーション手法、多面的な視点から導く課題解決・プロジェクト実行力などの高い知識を得るための科目を2年間で学んでいきます。

カリキュラム



■修了に必要な合計単位数：42単位

ディプロマ・ポリシー 修士(公衆衛生学)

本修士課程は、本研究科規則に定められた教育課程の所定単位を修め、修士論文または特定の課題についての研究成果に関する報告書を提出し、その審査および最終試験に合格した者に、修士(公衆衛生学)の学位を授与します。

1. 知識習得と評価分析スキル

現代における公衆衛生・保健・医療・福祉の現状、最新のテクノロジーや社会システムを把握し、科学的な評価・分析に基づいて課題を抽出できる能力を身につけていること。

2. 分析結果に対する改善提案スキル

科学的根拠に基づいた革新的な課題解決の方策を検討できる能力を身につけていること。

3. 合意形成・発信スキル

多様な背景を持った人や組織間での合意形成を実現するため、多面的な視点から物事を捉える能力、プレゼンテーション・コミュニケーション・語学能力を身につけていること。

4. 業務遂行・組織管理スキル

組織が限られた資源を有効かつ効率的に活用して課題解決を実現させるための、計画・管理・実行能力を身につけていること。

科目区分	授業科目	配当年次	単位数		講義言語		備考	
			必修	選択	日本語	英語		
共通科目	未病特論	1年次後期	1			●	4単位以上取得	
	ヒューマンサービステ論	1年次前期		1	●			
	ヘルスイノベーション概論	1年次前期	1			●		
	データサイエンス	1年次前期	1			●		
	ヘルスイノベーションにおける「責任ある研究・イノベーション(RRI)」I	1年次後期	1			●		
	小計(5科目)		4	1				
公衆衛生学 基盤科目	疫学領域	疫学概論	1年次前期	2			●	14単位以上取得
		疫学研究	1年次前期		2	●		
		疫学研究(英語)	1年次前期		2		●	
		疫学演習	1年次後期		2	●		
		疫学演習(英語)	1年次後期		2		●	
		臨床研究マネジメント	2年次前期		1	●		
		小計(6科目)		2	9			
	生物統計学領域	生物統計学基礎	1年次前期	2			●	
		生物統計学実践	2年次前期		2		●	
		研究の技法	2年次前期		1	●	●	
		小計(3科目)		2	3			
	社会行動科学領域	健康行動科学	1年次前期	2			●	
		ヘルスコミュニケーション	1年次後期		2	●		
		フィールド調査・研究方法	1年次前期		2		●	
		社会健康学・社会疫学	1年次後期		2	●		
		小計(4科目)		2	6			
	環境保健学領域	環境保健学	1年次前期	1			●	
		産業保健学	1年次後期		2	●		
		産業保健学演習	2年次前期		1	●		
	小計(3科目)		1	3				
保健医療管理学領域	健康・医療政策	1年次前期		2		●		
	国際保健政策	1年次後期		1		●		
	医療経済学	1年次前期	2			●		
	ヘルスケア管理学	2年次前期		2	●			
	小計(4科目)		2	5				
	小計(20科目)		9	26				
ヘルス イノベーション 専門科目	健康危機管理論A(英語)	1年次後期		1		●	6単位以上取得	
	健康危機管理論B(日本語)	1年次後期		1	●			
	未病社会のライフデザイン	1年次後期		2		●		
	ヒューマン・ニュートリション	1年次前期		1		●		
	ファイナンス・アカウントティング	1年次後期		2		●		
	マーケティング・ストラテジー	1年次後期		2		●		
	医療技術評価	2年次前期		2		●		
	健康教育劇場/Health Education Theater	1年次後期		2		●		
	口腔保健特論	2年次前期		2		●		
	レギュラトリーサイエンス概論	1年次後期		1		●		
	小計(10科目)		0	16				
実践・特別 研究科目	アカデミックプレゼンテーション	1年次前期		1		●	11単位以上取得	
	アカデミックライティング	1年次前期		1		●		
	アントレプレナーシップI(アイデア創出)	1年次後期		1		●		
	アントレプレナーシップII(ビジネスモデル仮説検証)	2年次前期		2		●		
	政策分析・政策立案演習	1年次後期		2		●		
	フィールド実習IA	1-2年次通年		2		●		
	フィールド実習IB	1-2年次通年		2		●		
	フィールド実習IIA	1-2年次通年		4		●		
	フィールド実習IIB	1-2年次通年		4		●		
	ヘルスイノベーション演習基礎	1年次後期		2		●		
	ヘルスイノベーション演習	2年次通年		6		●		
小計(11科目)		8	19					
合計	46科目		21	62				

必修科目21単位、選択科目から21単位以上を修得し、42単位以上修得すること。

科目区分ごとに、共通科目から4単位以上、公衆衛生学基盤科目から14単位以上、ヘルスイノベーション専門科目から6単位以上、実践・特別研究科目から11単位以上を修得すること。

修了要件は、2年以上在学し、所定の単位数を修得し、必要な研究指導を受け、課題研究もしくは修士論文の審査に合格すること。

修士課程

履修モデル

※ = 必修科目

リサーチャー

大学や研究機関等で保健・医療・福祉分野における研究者として質の高い研究・開発を行うことを目指す。

共通科目	公衆衛生学基盤科目	ヘルスイノベーション専門科目	実践・特別研究科目
<ul style="list-style-type: none"> ・未病特論※ ・ヒューマンサービス特論 ・ヘルスイノベーション概論※ ・データサイエンス※ ・ヘルスイノベーションにおけるRRI・I※ 	<ul style="list-style-type: none"> ・疫学概論※ ・疫学研究・疫学演習 ・臨床研究マネジメント ・生物統計学基礎※ ・生物統計学実践 ・研究の技法・健康行動科学※ ・環境保健学※ ・医療経済学※ 	<ul style="list-style-type: none"> ・医療技術評価 ・口腔保健特論 ・レギュラトリーサイエンス概論 	<ul style="list-style-type: none"> ・アカデミックプレゼンテーション ・アカデミックライティング ・アントレプレナーシップI ・ヘルスイノベーション演習基礎※ ・ヘルスイノベーション演習※

ビジネスパーソン

ビジネスの領域における課題を発見し、社会制度やシステムも踏まえた課題の分析や現実的な解決策を提言できるようになることを目指す。

共通科目	公衆衛生学基盤科目	ヘルスイノベーション専門科目	実践・特別研究科目
<ul style="list-style-type: none"> ・未病特論※ ・ヒューマンサービス特論 ・ヘルスイノベーション概論※ ・データサイエンス※ ・ヘルスイノベーションにおけるRRI・I※ 	<ul style="list-style-type: none"> ・疫学概論※ ・生物統計学基礎※ ・健康行動科学※ ・フィールド調査・研究方法 ・環境保健学※ ・健康/医療政策 ・医療経済学※ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ファイナンス/アカウンティング ・マーケティング/ストラテジー ・医療技術評価 ・レギュラトリーサイエンス概論 	<ul style="list-style-type: none"> ・アカデミックライティング ・アントレプレナーシップI ・アントレプレナーシップII ・フィールド実習IB ・ヘルスイノベーション演習基礎※ ・ヘルスイノベーション演習※

アドミニストレータ

保健・医療・福祉機関が抱える組織経営上の課題や医療サービス提供上の課題を発見し、社会制度や地域の様々なニーズを踏まえて課題の分析や解決策の提言を行えるようになることを目指す。

共通科目	公衆衛生学基盤科目	ヘルスイノベーション専門科目	実践・特別研究科目
<ul style="list-style-type: none"> ・未病特論※ ・ヒューマンサービス特論 ・ヘルスイノベーション概論※ ・データサイエンス※ ・ヘルスイノベーションにおけるRRI・I※ 	<ul style="list-style-type: none"> ・疫学概論※ ・生物統計学基礎※ ・健康行動科学※ ・ヘルスコミュニケーション ・環境保健学※ ・産業保健学 ・産業保健学演習 ・医療経済学※ ・ヘルスケア管理学 	<ul style="list-style-type: none"> ・健康危機管理論A ・健康危機管理論B ・ファイナンス/アカウンティング ・マーケティング/ストラテジー ・健康教育劇場 Health Education Theater 	<ul style="list-style-type: none"> ・アカデミックプレゼンテーション ・アントレプレナーシップI ・アントレプレナーシップII ・フィールド実習IA ・ヘルスイノベーション演習基礎※ ・ヘルスイノベーション演習※

ポリシーメーカー

地域が抱える保健・医療・福祉課題や自治体組織が抱える課題を発見し、社会制度や多様なステークホルダーのニーズを踏まえて課題の分析や解決策の提言を行えるようになることを目指す。

共通科目	公衆衛生学基盤科目	ヘルスイノベーション専門科目	実践・特別研究科目
<ul style="list-style-type: none"> ・未病特論※ ・ヒューマンサービス特論 ・ヘルスイノベーション概論※ ・データサイエンス※ ・ヘルスイノベーションにおけるRRI・I※ 	<ul style="list-style-type: none"> ・疫学概論※ ・生物統計学基礎※ ・健康行動科学※ ・社会健康学/社会疫学 ・環境保健学※ ・健康/医療政策 ・国際保健政策 ・医療経済学※ 	<ul style="list-style-type: none"> ・健康危機管理論A ・健康危機管理論B ・未病社会のライフデザイン ・ヒューマンニュートリション ・健康教育劇場 Health Education Theater ・レギュラトリーサイエンス概論 	<ul style="list-style-type: none"> ・アントレプレナーシップI ・フィールド実習IA ・ヘルスイノベーション演習基礎※ ・ヘルスイノベーション演習※ ・政策分析/政策立案演習

博士課程

養成する人材

4タイプの国際的・高度専門人材を養成

公衆衛生の視点による科学的根拠に基づいたアプローチによって社会変革に意を尽くし、国際社会の将来を牽引することができる、「高度研究人材」「高度マネジメントリーダー」「高度ヘルスケアプロバイダ」「高度ポリシーメーカー」の4タイプの国際的・高度専門人材を育成します。

高度研究人材

国内外の教育研究機関や企業内研究所などにおいて、保健・医療・福祉分野の課題解決に繋がる技術や社会システムの革新に関する高度な研究・開発を自ら行い、また牽引することができるリーダー人材を育成します。

具体的な進路

○教育研究機関や企業研究所などにおいて、未病などの新たな学問体系を含む、保健・医療・福祉分野やトランスディシプリナリー研究分野における研究を自ら実施し、またそのような研究を牽引する研究者



高度マネジメントリーダー

国際的企業や非営利法人などにおいて、保健・医療・福祉分野の課題解決に繋がる革新的な技術やサービスを具体的に産業化・組織化し、グローバルに展開するために組織を牽引できるリーダー人材を育成します。

具体的な進路

○NPO/NGO において、革新的な製品やサービス・ビジネスプロセスを展開するために、組織を牽引するリーダーとして活躍する職員
○アントレプレナー・ソーシャルアントレプレナーとして企業や非営利組織などを起業し、課題解決に向けてビジネスを牽引する起業家



高度ヘルスケアプロバイダ

病院をはじめとした保健・医療・福祉サービスの提供組織などにおいて、地域や国際社会のニーズに則したサービスを高度かつ効果的・効率的に提供するために組織を牽引することができるリーダー人材を育成します。

具体的な進路

○病院などの医療機関、介護施設、薬局などの組織において、ニーズに則した保健・医療・福祉サービス提供を効果的・効率的に行うべく、組織を牽引する管理者・経営者



高度ポリシーメーカー

国際機関や行政機関などにおいて、保健・医療・福祉分野の課題解決に取り組む様々な組織や人材などを繋ぎ、保健・医療・福祉課題の解決に資するエコシステムをグローバルに構築することができるリーダー人材を育成します。

具体的な進路

○自治体・行政機関・国際機関において、自らの専門性を駆使して多様なステークホルダーを繋ぎ、従来の枠組みを超えた、組織を牽引する高度行政官



博士課程

学ぶこと



パブリックヘルス Doctor of Philosophy (Ph.D.)

「疫学」「生物統計学」等の公衆衛生学5領域全般に関する専門的な知識・技法を学ぶ科目を、共通科目として配置。また5領域ごとに、自ら課題解決に取り組み、研究計画の作成及び発表ができる能力を養成するための「特別演習科目」も配置しています。個々のこれまでの履修状況に応じて、本研究科修士課程で提供している、公衆衛生学やイノベーションに関する科目を受講することも可能です。



国際的 高度専門人材として

共通科目の履修を通して、国際的・高度専門人材に求められる、生命倫理・研究倫理、さらには、政策理念としての倫理観と価値規範を涵養します。



イノベーション

従来の手法やパラダイムでは解決し得ない保健・医療・福祉課題に対処するため、共通科目の履修を通して、イノベーションの技法を、また特別演習科目で複数の領域を履修することでイノベーションに不可欠なトランスディシプリナリー教育を実践します。



実践的な課題解決に 向けた研究

研究、産業、保健・医療・福祉提供、行政などの領域における保健・医療・福祉分野の具体的な課題を自ら設定し、実践的な課題解決に向けた方策について探求し、研究を遂行します。

博士課程

カリキュラム



授業科目

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数		備考
			必修	選択	
共通科目	パブリックヘルス・リーダーシップ特講	1年次前期	2		3単位以上取得
	世界の健康課題とイノベーション特講	1年次後期	1		
特別演習科目	疫学特別演習	1年次通年		2	4単位以上取得
	生物統計学特別演習	1年次通年		2	
	社会行動科学特別演習	1年次通年		2	
	環境保健学特別演習	1年次通年		2	
	保健医療管理学特別演習	1年次通年		2	
特別研究科目	ヘルスイノベーション特別研究	1-3年次通年	12		12単位以上取得

必修15単位+選択4単位の合計19単位以上を修得

ディプロマ・ポリシー 博士(公衆衛生学)

本博士課程では、本研究科規則に定められた教育課程の所定単位を修め、博士論文を提出の上、その審査および最終試験に合格した者に、博士(公衆衛生学)の学位を授与します。審査にあたっては、以下の点に到達していることを目安とします。

- ① 現代における保健医療の諸課題、最新のテクノロジーや社会システムを深く理解し、科学的な評価・分析に基づいて課題を抽出し、科学的根拠に基づいた革新的な課題解決の方策を提示することを通じて、保健・医療・福祉における新たな社会的・経済的価値を生み出すことができる能力を身につけていること。
- ② 保健・医療・福祉の向上を担う国際的・高度専門人材として、研究、産業、保健・医療・福祉提供、行政などそれぞれの領域において、国内外におけるリーダーシップを発揮できる学術性・専門性・教養・倫理観及び価値規範を有していること。



学びかた



社会人が学びやすい環境

勤務を継続しながら学ぶことができるように、講義は平日夜間や土曜日を中心に開講。また、一部の科目ではメディアを併用した授業を行うことで、通学の負担を軽減するなど、社会人が学びやすい環境が整っています。



アクティブ・ラーニング

イノベーションの創出を目指して、能動的な学習を促進し、高い情報発信力を身につけるため、講義ではグループワークやプレゼンテーションを重視したアクティブ・ラーニングを積極的に取り入れます。知識の習得自体は、可能な限り予習やICTを用いた講義を活用します。



英語による講義

国際的人材としての能力を身につけるために、またトランスディシプリナリーな環境を創造する上で、英語によるコミュニケーションは不可欠なスキルです。そこで、英語による授業を多く開講し、英語による授業のみでも修了できるカリキュラムを構築しています。なお、必ずしも始めから高い英語力がなくとも授業の理解が深まるよう、教員による学習上の支援や配慮を行います。



様々なネットワークの活用

県立大学という本学の特性を活かし、神奈川県が持つネットワークを活用した研究や実践が期待できます。例えばフィールド実習では、県庁や関係機関における実習なども想定されます。また、本学は国内外の研究機関や国際機関と連携を図っており、世界保健機関 (WHO) や欧米・ASEAN 諸国の大学等と連携した教育研究も行います。

在学生・修了生の声



修了生 **石川 雄一 さん**

履修モデル リサーチャー／ビジネスパーソン

産業医科大学医学部を卒業後、膠原病・リウマチ内科の専門医として産業医科大学病院、横浜労災病院等で勤務。現在は臨床医に加えて、中小の事業所で嘱託産業医としても従事している。DPC等の公的医療保険データベース、多施設共同の膠原病疾患レジストリを用いた臨床研究なども行っている。

仕事と学業の両立に理解を示し
専門的な知見で研究を導いてくれる
先生方の手厚いサポートに感謝

臨床医と産業医の2つの仕事をしていくなかで、どのように社会に対して自分の経験を役立てることができるのか、また、医師として関わる人たちのウェルビーイングにどういった形で貢献していけるかを考えるようになり、医学以外の分野の勉強や経験を積む必要があると考えSHIに入学しました。修士課程1年の前期は、課題に追われる時期もありましたが、先生方は仕事と学業の両立に理解を示していただき、ありがたいと同時に心強く感じました。現在は腕時計型ウェアラブルデバイスを用いた睡眠に関する研究を行っています。共同研究者として関わっている研究プロジェクトでも腕時計型の活動量計を使用して睡眠の解析する予定です。SHIは、ヘルスケア領域で起業を含め新しいプロジェクトを考えている方にとっては、実践的な手法を学ぶことができる場です。医療職を含めたさまざまな背景を持った学生がいますので刺激をもらえます。疫学や生物統計学の専門家の先生も揃っていますので、学術的な裏付けのあるビジネスや新しいチャレンジをしてみたい方には最適な環境ではないでしょうか。

SHIで学んだ生物統計学を用いて 母国アフガニスタンで 医療情報システムの開発を目指す

アフガニスタンは、これまで一貫して様々な伝染性・非伝染性疾患と闘い、多くの命を奪われてきました。このような状況の主な要因は、タイムリーで綿密なデータ分析、疾病パターンの特定、発生予測の欠如に起因する、疾病蔓延の不十分な監視と管理です。しっかりとした統計分析や統計知識がないため、高リスク集団の特定や疾病負担の評価が妨げられています。SHIに入学して、このような重要な知識を取得するために、生物統計学の授業で学ぶ専門知識を大いに活用できることに気づきました。そうすることで、この知識を母国に戻って応用することを目指しています。生物統計学は、アフガニスタンにおける強固な医療情報システムの開発に大きく貢献する可能性を秘めています。これによって、正確でタイムリーな保健データの収集、分析、報告が確実になり、最終的には、保健上の課題に効果的に対処し、管理するための国の能力を高めることができるのです。



在学生 **Mohammad Wasil Ahmadi さん**

履修モデル リサーチャー／ポリシーメーカー

山口大学で経済学修士号を取得後、母国アフガニスタンに帰国し、地方復興開発省に入省。世界銀行やアジア開発銀行の資金援助を受けた様々なプロジェクトに携わったが、タリバン政権発足後に職を失った。INGO(非政府間国際機構)と協力して、緊急医療・栄養支援を提供した経験もある。



在学学生 **大貫 詩織さん**
履修モデル ビジネスパーソン/ポリシーメーカー

助産師/YouTuber/株式会社Rine代表取締役。総合病院産婦人科、精神科児童思春期病棟にて勤務の後、現在は学校での性教育に関する講演や性の知識を普及するイベント等の講師を務める。性教育YouTuberとして、性の知識を学べる動画も配信中。著書に『CHOICE 自分で選びとるための性の知識』など。

共に学ぶ仲間が社会人経験で得た知識やノウハウを共有しながら自身のフィールドを広げる貴重な機会

個人で情報発信をしていくなかで、自身の取り組みが本当に意味のあるものなのかを検証するスキルや、裏付けのある情報を持って政策提言や事業立ち上げをできるスキルを身に付けたいと思いSHIに入りました。子育て中で、仕事&育児&学業の両立は簡単ではありませんが、ほとんどの授業でオンライン参加ができるので助かります。いつも直前まで子の夕飯やお風呂などの対応をして、時間になるとzoomに駆け込んでいます。SHIで学ぶ仲間にはさまざまなバックグラウンドを持った人がいます。自治体職員の同級生から、国で作られた政策がどのように市町村で動くのかといった話を聞けるなど、それぞれの経験を知見やノウハウとして共有できるのは大きいですね。私が普段いるフィールドでは見えない世界、見えない情報に触れられる貴重な機会になっています。私の直近の目標は、「手軽に」「すぐに」利用できる産後ケアサービスを立ち上げること。母親に負担が偏りがちな育児について、他の人の力を借りながら行うことが当たり前と思えるような文化を築いていきたいです。

SHIの恵まれた環境の中で医療課題と向き合いながら好きな研究が続けられる喜び

希少疾患領域においては解決すべき課題が存在しながら、未だに解決に至らない状況が続いています。その課題をどのように解決すべきなのか、研究者や医療従事者からの報告を待っているだけでなく自らそれに取り組んでみたいと思ったのが入学の動機です。「働きながら研究できるの?」という人もいるでしょうが、SHIには「やりたい」をサポートしてくれる素晴らしい環境が整っています。また、私についていえば、どれだけ疲れていても、時間がなくても、研究をつらいつつすることは一度もありません。電車でもお風呂にはいつても常に研究のことを考えているほどです。現在の研究が、日々の業務にそのまま役立っていることも私のモチベーションになっています。普通のサラリーマンが、査読付きの海外ジャーナルに論文を投稿しているのですから、コンサルティングの現場でもそのインパクトは絶大です。自分の打ち出した研究結果をエビデンスとして示すこともあり、そんなときにはいつも増してクライアントが私の話をじっくりと聞いてくれます。



在学学生 **田中 弘之さん**
履修モデル リサーチャー/ビジネスパーソン

薬学部大学院を修了し、製薬企業の研究員として従事した後、外資系製薬企業で新薬のマーケティング部、メディカルアフェアーズ部を経験。現在は、製薬企業にコンサルティングを提供する企業において新規ビジネスを立ち上げ、執行役員、カンパニー長。働きながら大学院に通い、経営学修士(MBA)を取得。



修了生 **草野 哲史さん**
履修モデル リサーチャー/ポリシーメーカー

大学時代は保険制度の研究に取り組む。大学卒業後は、地方自治体に入職し、健康・医療・福祉分野における政策の企画、立案に従事。SHIの修士課程では、「健康状態の悪化が、労働供給やインフォーマルケアに与える影響について」をテーマに、因果推論の手法を用いて医療経済学の観点から研究を進めている。

チャレンジのハードルを下げ社会課題の解決にも役立つアントレプレナーシップの講義

SHIは社会人が履修しやすいカリキュラムになっていることが魅力の一つです。講義は平日の夜間と土曜日、オンラインで参加することも可能なので効率的に時間を使うことができます。課題でグループワークをする場合も、学友たちとオンラインで打合せをすることが多いですね。これまでの講義の中では、アントレプレナーシップの講義が特に印象に残っています。アントレプレナーシップの考え方は起業家だけでなく、社会課題の解決を志向する人に役に立つと思っています。この講義をバラエティに富んだバックグラウンドを持つ学友たちと経験したことによって、新しい物事にトライする際のハードルが下がったように思います。私が今、研究の中で注目しているのはデータを用いた政策の評価です。情報機器の演算能力、データ量といった欠点が解消されてきてはいるものの、依然として政策の評価に十分ではないように感じるからです。卒業後も、政策の及ぼす効果の定量的な把握や、健康・医療・福祉における事象の因果関係について研究を深めていきたいですね。

医療統計を学びたいと入学を決意ソフトを使った解析ができるようになり海外にフィールド実習に行くチャンスも

医療機器関連会社の品質マネジメントシステムの構築をサポートしているときに統計的解析が用いられているケースがあり、医療統計を学びたいと思ったことが入学のきっかけです。また、統計やデータ分析に苦手意識があって、顧客と同じレベルで会話できるようにしたいと考えていたことも大きかったですね。仕事との両立は楽ではありませんが、授業はどれも面白くて興味深いですし、さまざまな背景を持つ学友から、プレゼン資料の素早い作り方、論文の検索方法、授業の発表など多くの刺激を受け、有意義な時間を過ごしています。さらに、フィールド実習で海外に行くチャンスが得られるのも魅力です。SHIでの学びを通じて、Stata、EZRなどのソフトを使って解析ができるようになりましたし、英文を読むのも格段に早くなりました。今後は、社会的入院を減らすためには何が必要かといった医療資源の有効活用などについて研究し、将来的には高齢社会で健康寿命を延ばすことや、医療関係者+αでの地域包括ケアシステムの構築に携わっていきたくと考えています。



修了生 **石井 亜由美さん**
履修モデル ビジネスパーソン

大阪府立大学工学部化学工学科卒業後、株式会社東芝でマイコンの開発に従事。特許事務所にて明細書作成に従事した後、2004年より行政書士として開業し、現在はあおぞらパートナー行政書士事務所代表として薬事・医療分野を中心に行政手続きや法務のサポートを行う。2020年に神奈川大学大学院法学研究科修了。

教員紹介



研究科長

鄭 雄一

担当科目
未病特論/フィールド実習/ヘルスイノベーション演習基礎/ヘルスイノベーション演習 ほか

研究・専門分野
人間工工学/人間情報学/社会医学



副研究科長

島岡 未来子

担当科目
アントレプレナーシップI(アイデア創出)/アントレプレナーシップII(ビジネスモデル仮説検証) ほか

研究・専門分野
起業家教育/非営利組織経営/ステークホルダー・マネジメント/協働ガバナンス



教授

津野 香奈美

担当科目
健康行動科学/社会健康学・社会疫学/産業保健学/産業保健学演習 ほか

研究・専門分野
社会疫学/精神保健学/行動科学



准教授

中田 はる佳

担当科目
ヘルスイノベーションにおけるPRI・I ほか

研究・専門分野
研究倫理/保健学



准教授

中村 翔

担当科目
疫学研究/疫学演習 ほか

研究・専門分野
疫学/予防医学/地域保健/がん疫学



講師

久保田 悠

担当科目
口腔保健特論 ほか

研究・専門分野
口腔衛生学/予防歯科学/国際歯科保健学



教授

徳野 慎一

担当科目
環境保健学/産業保健学/産業保健学演習/健康危機管理論 ほか

研究・専門分野
社会医学/災害医学/医療工学/音声病態分析学



教授

成松 宏人

担当科目
疫学研究(英語)/疫学演習(英語)/研究の技法 ほか

研究・専門分野
臨床疫学/公衆衛生学/個別化医療



教授

Yoo, Byung-Kwang

担当科目
健康教育劇場(Health Educaion Theater) ほか

研究・専門分野
医療経済学/医療政策



講師

黒河 昭雄

担当科目
ヘルスイノベーション概論/レギュラトリーサイエンス概論/政策分析・政策立案演習 ほか

研究・専門分野
行政学/公共政策/レギュラトリーサイエンス/医療イノベーション政策/科学技術イノベーション政策



講師

Thomas Svensson

担当科目
疫学概論/国際保健政策/アカデミックプレゼンテーション ほか

研究・専門分野
睡眠疫学/デジタルヘルス/プレジジョンヘルス(個別化保健医療)/生活習慣病



講師

根本 裕太

担当科目
フィールド調査・研究方法 ほか

研究・専門分野
公衆衛生学/老年学/健康科学/地域保健



教授

吉田 穂波

担当科目
ヘルスコミュニケーション/健康危機管理論 ほか

研究・専門分野
母子保健ICT/社会医学/健康科学/周産期疫学/人材育成/災害時母子支援に関する研究・政策提言



教授

渡邊 亮

担当科目
健康・医療政策/ヘルスケア管理学/未病社会のライフデザイン ほか

研究・専門分野
保健医療管理/保健医療政策/管理会計



准教授

下畑 宣行

担当科目
医療技術評価 ほか

研究・専門分野
医療技術評価/医療機器研究開発/バイオマテリアル



助教

Yichen Shen

担当科目
医療経済学/データサイエンス ほか

研究・専門分野
医療経済学/教育経済学/医療政策

より詳しい教員情報は
こちら

▼



研究室紹介は
こちら

▼



※教員は、追加・変更となる場合があります

招聘教授・客員教授



招聘教授

アサモア・バー 氏

前WHO事務局次長

All over the world, people are living longer. People's expectations from life are getting higher. More and more people expect to have productive, independent, high quality and enjoyable time post retirement.

For most people the ME-BYO concept is a better reflection of their health status than the binary concept of either you are healthy or sick. The ME-BYO recognised that diet, exercise, people's proactive participation and engagement in social activities to maintain good health and prevent the onset or further progression of disease are as important as technology and medical interventions

in preserving and maintaining a healthy life. Unfortunately, this is neither the current health paradigm nor current practice. Therefore establishing an academic institution that will challenge the current orthodoxy, help promote the ME-BYO concept and train the next generation of health leaders and health innovators is a very welcome initiative.

I congratulate the Kanagawa Prefecture for this initiative and salute and applaud Governor Kuroiwa for his foresight and leadership. I am particularly pleased that Kanagawa Prefecture is collaborating with international health organizations such as the World Health Organisation. Hopefully this will provide a broader platform to share the Kanagawa experience with the rest of the world, in the spirit of universal health coverage and not leaving anyone behind.



招聘教授

タカシ・キヨイズミ 氏

サンディエゴ在住のエンジェル投資家・
バイオベンチャー起業家

少子高齢化が加速的に進む今日の社会で渴望されている人材は、ヘルスイノベーションを推進し、駆使して健康社会を牽引していくリーダーです。グローバル化が加速している現代では、ヘルスイノベーションは世界中の人々の健康と幸せに大きく貢献します。新規技術は、社会実装が可能になって初めてイノベーションとなります。

殿町からグローバルに羽ばたく次世代のイノベーターを育成するイノベーション研究科(SHI)、大いに期待するとともに心より応援しています。



招聘教授

角 由佳 氏

WHOメディカルオフィサー

国連『健康な高齢化の10年』(2021-2030) <<https://www.who.int/initiatives/decade-of-healthy-ageing>>は、政府、市民社会、国際機関、専門家、学術機関、メディア、民間など多様なセクターや関係者が集まり、"すべての人々が健康で長く生きられる世界"を実現する機会となっています。COVID-19の流行期間中、テクノロジーの活用は、高齢者やその家族、コミュニティの健康と福祉をサポートする有用な手段として注目されています。健康な高齢化(Healthy Ageing)のためには、公衆衛生、テクノロジー、イノベーションに関する知識と専門性の息吹を持ったリーダーシップが緊急に必要です。近い将来、皆さんと一緒に仕事ができることを楽しみにしています。



客員教授

森田 朗 氏

担当科目
健康・医療政策

研究・専門分野
行政学
公共政策



応援メッセージ



黒岩 祐治 氏

神奈川県知事

人生100歳時代を迎え、この圧倒的な超高齢社会を乗り越えるため、神奈川県では未病というコンセプトのもとで、様々な課題解決に向けた取組みを進めています。

こうした中、県立保健福祉大学がヘルスイノベーションスクールにおいて、高齢化などによって生じる諸課題の解決に貢献できる人材をこの神奈川から輩出していくことは、大変心強いことです。このスクールで学んだ学生が未病コンセプトを理解し、笑いあふれる100歳時代の実現に向けて、様々な場で活躍していただくことを大いに期待しています。



鈴木 寛 氏

東京大学大学院教授・慶應義塾大学大学院教授
神奈川県立保健福祉大学理事 神奈川県参与

ヘルスイノベーションスクールは、従来の公衆衛生大学院とは異なり、産官学の共創のもとに、未病をはじめとする新たな領域の開拓とソーシャル・イノベーションを起こす人材の輩出を目指す世界初の大学院です。今日、社会のあり方が大きく変わりつつある中、この国の新たな社会像を具体的に構想し、実際にプロデュースしていくような人材が、このSHIという「場」を通じて育っていくことを大変楽しみにしております。

SHIの今後の発展と教職員・学生の皆様の益々のご活躍を期待いたします。

メッセージ

未病を学び、未病を究める

公立大学法人
神奈川県立保健福祉大学 理事長

大谷 泰夫



神奈川県黒岩祐治知事の提唱による「未病」という新しい健康観を現実化していくため、県の全面的な支援の下に新しい大学院である「ヘルスイノベーションスクール」を2019年4月に開設しました。

このスクールは、保健・医療・福祉分野において社会システムや技術の革新を起こすことができる人材の育成を目指した全く新しい教育研究機関です。

神奈川県をはじめ、産業界や教育研究機関、行政などの様々なアクターと幅広くネットワークを結びながら、新しいヘルスイノベーションを起こす拠点となることを目指し、世界に通用する人材の輩出や、課題を解決する研究を進めてまいります。

人生100歳時代を迎える中で、多くの優れた人材や研究を殿町の地から誕生させたいと考えております。ヘルスイノベーションスクールにおける新しい社会づくりに多くの皆様のご支援をいただきますよう、お願い申し上げます。

ヒューマンサービスを

イノベーションで探究しよう

公立大学法人
神奈川県立保健福祉大学 学長

村上 明美



神奈川県立保健福祉大学は、ヒューマンサービスをミッションに掲げ、保健・医療・福祉の連携と総合化、生涯にわたる継続教育の重視、地域社会への貢献を基本理念としています。

わが国では急速に少子高齢化が進み、人口減少や感染症の流行、自然災害の多発など、多様な社会問題が顕在化しています。いのちの誕生から終焉まで「ひと」の生涯を通じ、健康や生活に携わる保健・医療・福祉人材の活躍が大きく期待されています。近年、科学は急速な進歩を遂げましたが、それに伴って生じた専門分化は、専門的視座からの部分解釈を促進しヒューマンサービスの根底にある「ひと」をホリスティック(全人的)にとらえることを難しくさせました。

2019年に開設した大学院ヘルスイノベーション研究科(SHI: School of Health Innovation)では、新たな健康観として神奈川県が打ち出す「ME-BYO(未病)」コンセプトに基づく社会システムや技術の革新を起こすことができる人材の育成を目指しています。そして、地域や産業界との連携に重点を置いて、研究成果の社会実装に注力していきます。

SHIでは、「ひと」をホリスティックに支援する課題についてイノベーションの切り口から取り組み、「人生100歳時代」を先導するイノベーターとしての力を存分に磨いてください。

入学案内

修士課程 アドミッション・ポリシー

健康寿命の延伸や未病を改善して市民一人一人が生きがいを持った人生を送ることができる社会を実現するために、既存の概念にとらわれない課題解決の方策を提示できる人材が強く求められるなか、本修士課程では、起業家精神を持ち、科学的根拠に基づいたアプローチによって社会変革に意を尽くすことができる人材を養成し、国内外に輩出することを目指しています。そのために、本修士課程では、右記のような人材を受け入れます。

1. 保健・医療・福祉の改善を通じて、人が生きがいを持った人生を送る社会を構築することに強い意欲がある者
2. 社会的課題に対する関心を有し、論理的・科学的思考に基づいた課題解決を志す者
3. 多様な背景を持った人や組織における課題について、多面的視点による解決策を提示しようとする者
4. 既存の視点枠組みにとらわれず、新たな観点から大胆な課題解決策の提示を行い、実行することができる者

入学者選抜試験では、以上の観点に立って、書類選考においては志望動機書や小論文等により意欲や専門知識などを、面接選考においては課題の解決へ向けて意欲的に研究に取り組もうとする力を、総合的に評価します。

出願時期 修士課程・博士課程共通

	第I期募集	第II期募集
出願期間	2024年9月2日(月)～10月10日(木)	2024年12月16日(月)～2025年1月16日(木)
書類選考可否発表	2024年11月1日(金)	2025年2月7日(金)
面接選考	2024年11月10日(日)	2025年2月16日(日)
面接選考可否発表	2024年11月20日(水)	2025年2月27日(木)

※詳細は募集要項をご参照ください。第I期募集で定員を充たした場合、第II期募集は行いません。

検定料・学費 修士課程・博士課程共通(2024年4月1日現在)

	神奈川県内在住	神奈川県外在住
検定料	30,000円	
入学金	282,000円	564,000円
授業料(年額)	535,800円	

博士課程 アドミッション・ポリシー

健康寿命の延伸や未病を改善して市民一人一人が生きがいを持った人生を送ることができる社会を実現するために、既存の概念にとらわれない課題解決の方策を提示できる人材が強く求められるなか、本博士課程では起業家精神を持ち、公衆衛生の視点による科学的根拠に基づいたアプローチによって社会変革に意を尽くし、未来を牽引することができる国際的・高度専門人材を輩出することを目指しています。そのために、本博士課程では、右記のような人材を受け入れます。

1. 保健・医療・福祉の改善を通じて、人が生きがいを持った豊かな人生を送ることができる社会を構築し、国際社会に貢献することに強い意欲がある者
2. 社会で得られた経験に基づいて、保健・医療・福祉分野における具体的な課題意識を有し、その課題に対して既存の視点に枠組みにとらわれず、かつ論理的・科学的思考に基づいて解決を志す者
3. 医学・歯学・薬学・保健学・公衆衛生学・看護学・工学・経済学・経営学など、様々な専門分野における博士前期課程(修士課程)修了に相当する一定程度の専門知識や研究能力および語学力を有し、倫理観の高い研究を遂行できる者

入学者選抜試験では、以上の観点に立って、書類選考においては志望動機書や小論文等により意欲や専門知識などを、面接選考においては課題の解決へ向けて意欲的に研究に取り組もうとする力を、総合的に評価します。

教育訓練給付制度

本研究科の修士課程が専門実践教育訓練講座に指定されました。一定の条件を満たす場合、入学金・授業料等の一部が支給されます。申請条件、申請方法等詳細については、厚生労働省のHPをご覧ください。

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/koyou_roudou/jinzaikaihatsu/kyouiku.html



本修士課程では、文部科学大臣認定「職業実践力育成プログラム(BP)」を取得しています。

イノベーション政策研究センター

川崎(殿町)キャンパス



イノベーションの社会実装を目指すシンクタンク

イノベーション政策研究センター(CIP)は、ヘルスイノベーション研究科の教育研究の取組を活かしつつ、政策立案の支援や学術研究・社会実装の推進に機動的に対応するため、全学の附置機関として、シンクタンク機能を担う組織です。

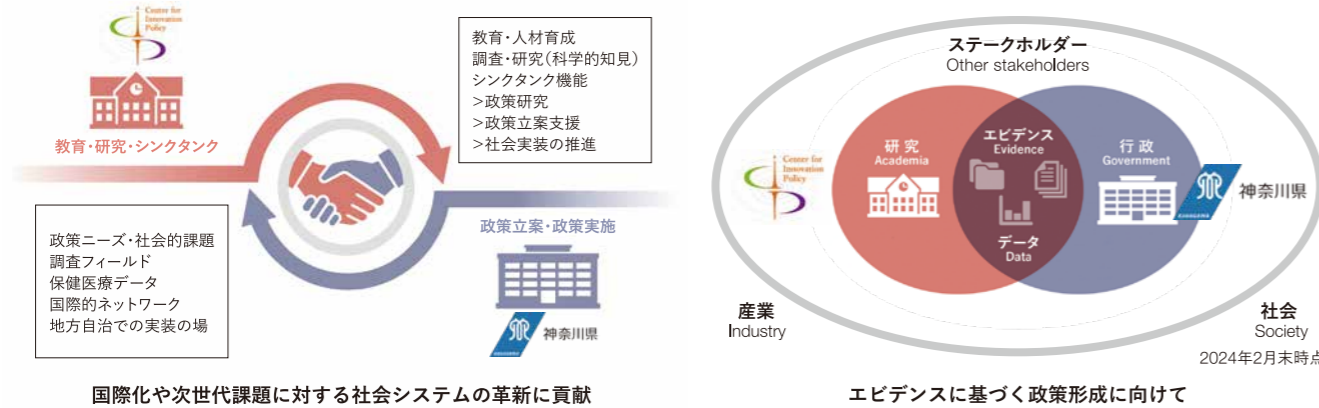
保健・医療・福祉に関する政策研究や提言を行うとともに、革新的未病産業・ヘルスケア産業を活性化していきます。また、学術的な研究と実社会の課題とのマッチングを行い、イノベーションの社会実装を推進します。

● ミッション

国内外のアカデミア、企業、行政等といった多様なステークホルダーとの協働のもと、科学的根拠に基づく領域横断的かつ革新的な研究活動を推進し、その成果の社会実装に取り組みと共に、根拠に基づいたヘルスイノベーション政策の実現に向けた政策立案・支援を行うことにより、人々が健やかな人生を送ることができる社会の構築に寄与することを目指します。そのため、本センターは、主に以下のような研究・業務を推進します。

● 神奈川県との連携

未病に関する基盤的研究の推進や保健医療データに基づく研究の推進など、イノベーション政策研究センターにおける活動の多くは神奈川県との強い連携のもとに推進されています。こうした行政との協働を通じた研究の推進を通して、エビデンスに基づく政策形成の実践に貢献することを目指します。



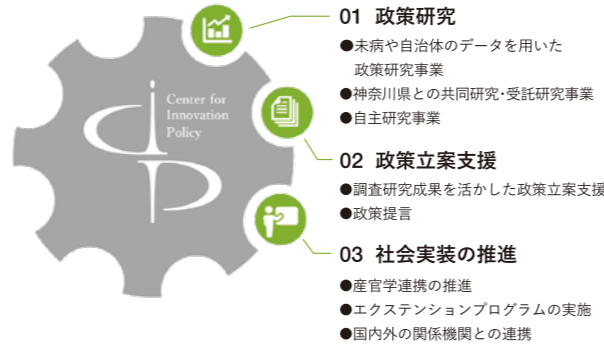
● センター長挨拶

神奈川立保健福祉大学イノベーション政策研究センター センター長 成松 宏人



CIPは、大学のシンクタンク機能を発揮するために、「イノベーション」を合言葉に科学的根拠に基づく政策立案支援や、研究成果の社会実装を担っています。例えば、自分の未病の状態を自ら簡単に知ることができる未病指標は、神奈川県との協働のもと、丁寧なフィールド調査により科学的なエビデンスの構築及び社会実装が進められています。直近では、当センターはこの指標を精緻化するためのデータ収集および解析を進めるとともに、新たに未来予測機能を開発しました。また、自治体が有する保健医療データの活用や新型コロナウイルス感染症をはじめとした各種感染症への対応など、公衆衛生の果たす役割がますます重要となっています。これまで以上に、大学の研究成果を生かし、行政や保健・医療・福祉の現場に、時にはそれらの現場と協働しながら、時宜を得た提言、そして、その実装が当センターに期待されています。特に、神奈川県内のコロナ感染予測モデル実装や、自治体が所有する保健医療データの活用ではその具体的な成果をあげつつあります。私たちは、これからも、革新的な研究活動を地域や産業と連携して推進するエンジンとしての役割を果たし、そして、誰もが輝ける健康長寿社会の実現に向けて前進していきます。

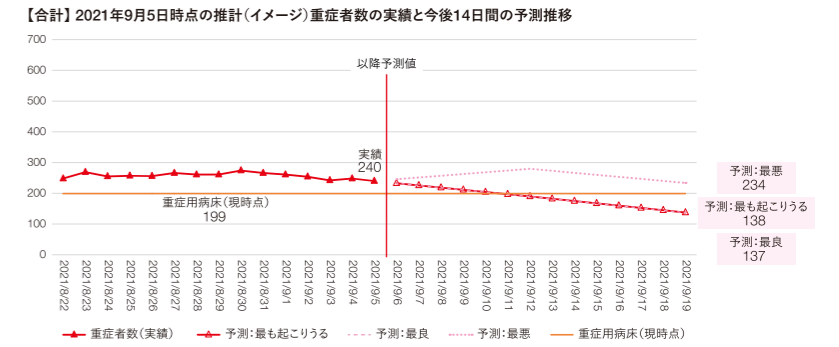
● 事業概要



1. 保健・医療・福祉の領域における、未病の考え方やデータの利活用推進等、最新の状況をふまえた政策研究の推進
2. 行政、民間等との共同研究及び受託研究等の推進
3. 調査研究成果の情報発信及び政策提言の実施
4. 産学連携の取組に係る事業の推進

● 政策形成への貢献・政策提言

神奈川県と連携してCOVID-19の予測に関する「簡易モデル」「主要モデル」を開発し、神奈川県における感染症対策に貢献しました。また、マスク・ガイドラインの改訂に関する政策提言を行うなど、CIPは研究プロジェクトの推進のみならず、政策形成への貢献を目指した活動を展開しています。2022年からは神奈川県などと協働して「下水道疫学」研究を実施。2023年に全数調査が終了したCOVID-19の感染状況を、下水サンプルを用いて把握する手法は、全国的にも注目を集めています。



● 多様な教育機会の提供

CIPでは、学位課程以外の形での様々な「学び」に対する社会的なニーズを捉え、セミナーやシンポジウム、公開講座等の形で多様な教育・研修機会を積極的に提供していきます。



- 市町村・保健所職員を対象とした保健医療データの利活用研修
- 企業・行政職員を対象とした公衆衛生学の基礎に関する講座
- ヘルスケアビジネスディベロップメントワークショップ

● 産学連携の推進

CIPは、行政のみならず、企業と連携して産学連携プロジェクトを推進しています。働く女性を対象とした健康実態や就労環境との関連性に関する疫学調査を実施し、データ解析を行うことにより、「働く女性 健康スコア 2024」の取りまとめと提言に貢献しました。



● 研究プロジェクト (2023年度)

CIPにおける研究活動は、プロジェクトベースで推進されており、ほぼすべてのプロジェクトにおいて行政・企業・他大学との連携がはかられています。様々なステークホルダーとの連携を通じたプロジェクト推進により、研究成果の創出のみならず、社会実装に向けた新たな価値の創出を目指します。

	プロジェクト名	プロジェクト種別	事業領域
1	未病指標事業(神奈川県協働事業)	政策立案支援	データサイエンス
2	グローバルヘルスリサーチコーディネーティングセンター(GHRCC)	社会実装の推進	データサイエンス、産業振興
3	ヘルスケア分野におけるイノベーションの推進施策の研究	社会実装の推進	産業振興
4	予防医療教育プログラムの開発と評価	政策研究 / 社会実装の推進	政策研究/政策提言
5	新型コロナウイルス・パンデミックの公衆衛生対策	政策立案支援	政策研究 / 政策提言/データサイエンス
6	保健医療データ活用業務委託事業(神奈川県委託事業)	政策立案支援	データサイエンス
7	女性の健康プロジェクト	社会実装の推進	産業支援
8	神奈川県における健康の地域格差要因の解明	政策研究	政策研究/政策提言
9	介入効果の高いサブグループ特定等を目的とした特定健診・特定保健指導の評価研究	政策研究	データサイエンス
10	横浜市がん基礎調査(横浜市委託事業)	政策立案支援	データサイエンス